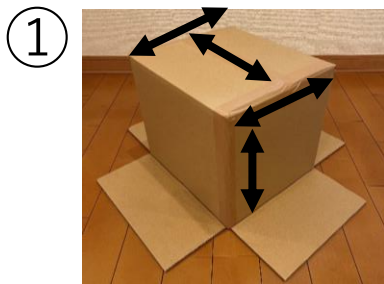


# 段ボールコンポストで循環生活を楽しもう

## ◇◇材 料◇◇

- ・ 段ボール箱（35cm角程 高さがあり厚手の丈夫なもの）
- ・ 箱の底板（箱の底と同じ寸法でそこに敷く段ボール・厚紙・紙袋など）
- ・ 基材 やし殻チップ 13～15L もみ殻くん炭 9～10L  
※やし殻チップともみ殻くん炭が3：2の割合。箱の7分目程度入れる
- ・ 虫よけカバー、スコップ、温度計 など
- ・ 底の風通しを良くするための、網状の台

## ◇◇準 備◇◇



箱の継ぎ目に紙製の  
ガムテープで目張り  
(虫の侵入防止)



箱の底に、底板を  
敷く  
※厚紙、紙袋もOK



段ボールの7分目程度  
基材を入れ混ぜる  
  
※生ごみを混ぜる作業  
のため



キャップを被せ雨の影響  
がない場所に設置  
風通しがよくなるように  
網状のかご等で底上げ

### やし殻チップ

やし殻チップは、ココナッツの椰子の実  
からできた土壌改良材。  
スポンジ質でやわらかく、保水性に優れ  
ている。エコロジーな天然資源。



### もみ殻くん炭

もみ殻を炭化させたもの。酸性の土壌  
を中和するほか、炭の性質である細か  
い穴は微生物のすみかとなり土壌を活  
性化させたり、保水性・通気性にも優  
れている。アフラムシよけにもなる。



## ◇◇毎日の手順◇◇



- ① 中心部に穴を掘り生ごみを入れる。
- ② 生ごみに基材をからめるよう混ぜたら外側の基材を覆いかぶせる。
- ③ 次の日は、前日とは違う場所に穴を掘り同様に基材をかぶせる。

※1日の投入量 500g 程度

生ごみは  
混ぜやすいよう  
刻んでおこう

スタートから2週間～ひとは箱内の基材全体が湿るまで時間がかかるため、特に生ごみを入れた部分だけを混ぜるとよい

CHECK!

- ・生ごみを広げず狭く固めて入れる事で、水分や分解の働きを集中させる
- ・普段は生ごみを入れた部分だけ混ぜ、月に1～2回全体を混ぜる
- ・酸素・栄養・水分バランスで微生物が分解してくれる。  
湿度は60%～70%
- ・生ごみ投入後は蓋をして虫よけキャップを必ず被せよう

白カビが発生することがありますが、特に問題はありません。



毎日、分解していく様子を  
楽しもう!



## ◇◇熟成◇◇

生ごみ投入累計50～60kg（4人家族で約3ヶ月）を目安に、混ぜにくくなったり、分解が進まなくなってきたら投入を中止し熟成に入る。基材の色が黒くなっていることを確認。未分解物がなくなるように仕上げる。

- ① 生ごみの投入をやめる
- ② 週に一回程度水分を与え全体を混ぜる
- ③ 3週間～ひと月②を繰り返し、生々しい未分解物が無くなれば堆肥の完成。

（卵の殻、骨、野菜の繊維などは残っていてもOK）



※熟成に入る際は、毎日のごみ用に二つ目のコンポストを用意！

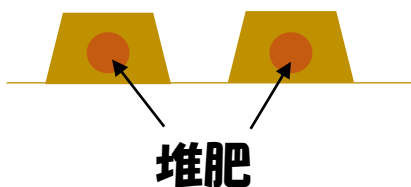
## ◇◇堆肥の利用◇◇

できた堆肥を使いましょう。できた堆肥は鶏糞程度の肥料効果があります。

### ・畑での利用

割肥にする・・・畝の真ん中の深さ20cm程のところに堆肥を埋め込む一箱の堆肥で10mくらいの畝に施肥ができる。表面では雑草の栄養にならないよう奥に入れ込む。

### 割肥



### ・プランターでの利用

堆肥1：土3～4の割合で混合し使う。堆肥は振るっておくと使いやすい



## ◇◇まとめ◇◇



POINT

酸素・水分・栄養 3つのバランスが大切です

### 1. 生ごみ

- ・貝、塩分の濃すぎる物以外は（料理程度は可）投入可能。
- ・連続なら700g位まで投入可能。

### 2. 臭い ー水分過多や酸素不足ー

- ・アンモニア、ヘドロ臭など匂ったら、全体をよく混ぜ空気を送り込む。
- ・段ボール箱が湿っていたら、生ごみの水分過多。
- ・基材の湿り具合にあわせ生ごみの水分を切ることで水分を調節する。
- ※投入時、水があまり多いと箱の底が傷み破れるため注意が必要。

### 3. 虫の発生

- ・ウジ虫などに困ったら、箱ごと、もしくは中身をビニル袋に入れ、しっかりと口を閉じる。
- 1～2日晴れた日にベランダ、庭など暑いところを利用し中まで熱くする。（虫は栄養となります。）



### 4. 水分

- ・水分量も分解に大切。基材の分解させるあたりがしっとりしているか確認し、乾燥気味にならないよう、生ごみ分解部分を中心に固めることが大切。
- それでも湿度が足りない場合は、シャワー状に水分を補充してもよい。
- ※水があまり多いと箱の底が傷み破れるため注意が必要。

### 5. 寒い季節

- ・冬場気温が低く微生物の働きが落ちる為、分解されにくければより小さく切っておく。
- ・新聞紙を箱内、基材の上に置く（保湿と水分吸収）
- ・風が当たらない暖かい場所に置く。
- ・カロリーの高い食品（廃油、魚のあら、でんぷん質のものなど）は分解が促進される。
- ※廃油は瓶などに保存し、何度かに分けて少しずつ回しかけるとよい。

ご質問・材料の購入相談などお気軽に

刈谷市女性の会連絡協議会

代表：岸本浩子 TEL：090（8677）0850 ※SMS可